

学習上の支援機器等教材活用促進事業

平成29年度予算額179百万円（平成28年度予算額305百万円）

背景

- ①障害のある児童生徒の将来の自立と社会参加に向けた学びの充実を図るためには、障害の状態や特性を踏まえた教材を効果的に活用し、適切な指導を行うことが必要である。
- ②また、各学校における必要な教材の整備、新たな教材の開発、既存の教材を含めた教材の情報収集に加え、教員がこれらの教材を活用して適切な指導を行うための体制整備の充実が求められている。
- ③これらの状況を踏まえ、これまで進めてきた学習上の支援機器等教材の研究開発に加えて、新たに支援機器等教材の選定・活用に必要な評価指標及び学習評価方法について調査研究を行う。

◎ 学習上の支援機器等教材研究開発支援事業 (134百万円)

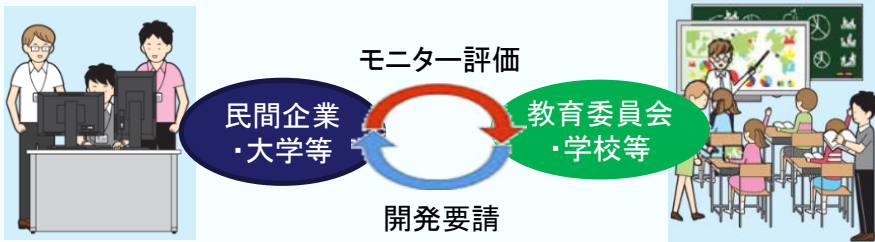
障害の状態や特性を踏まえた教材の実用化・製品化は市場規模が小さい等の理由から進んでいない状況にあることを踏まえ、**企業・大学等が学校・教育委員会等と連携し、ICTを活用した教材など、障害のある児童生徒が入手しやすい価格、障害の状態等に応じた使いやすい支援機器等教材の開発を支援する。**



【開発件数：4件（平成27年度指定継続分）】

（事業内容）

- 児童生徒の障害等に応じた支援機器教材の開発
- 学校・教育委員会等と連携し、より使用しやすくするための分析、開発



◎ 学習上の支援機器等教材活用評価研究事業 (42百万円)(新規)

教員が障害の状態や特性を理解した上で、**適切な支援機器等教材を選定・活用するために必要な指標及び支援機器等の活用に伴う学習評価指標の研究を行う。**また、通常の学級において、支援機器等教材を必要とする児童生徒と必要としない児童生徒及び保護者に対し、教材や支援機器の充実及び活用が、障害のある児童生徒の**合理的配慮及び指導上重要であることを理解**してもらうための効果的取組について研究を行う。

（事業内容）

- 支援機器等教材を必要とする児童生徒の教材選定時における評価方法、及びその児童生徒に対する他の教材活用・効果の比較研究
- 支援機器等教材の活用に伴う学習評価方法の研究

【教育委員会 18地域】

